

JSRT 企画

JSRT 企画① 乳房班 10月3日(土) 11:00～12:00 第4会場

マンモグラフィの品質管理できていますか？施設での苦労や工夫を教えてください！

座長 東北大学病院 千葉 陽子

1. マンモグラフィ品質管理の工夫と課題 - 当院での取り組み -

弘前大学医学部附属病院 菅原 愛花

2. デジタルブレストトモシンセシスの品質管理での悩み

新潟県立がんセンター新潟病院 本間 登志美

3. MMG 入門編 その2「低コントラスト分解能 - CDMAM を使用して -」

東北大学病院 千葉 陽子

皆様が毎日行っている日常点検、定期的に行っている不変性試験。おそらく、誰もが問題や悩みをかかえながら行っていると思います。この管理は何のために行っているのだろうか？何を求められているのだろうか？そのような問題を解決するため今回乳房班ではこのような内容を企画いたしました。実はこんな悩みがある、こんな工夫を行っている、マニュアル通りに行っていてもこんな注意が必要、など事例を紹介しつつ、皆様の施設が悩むことなく管理を行えるような情報を提供していこうと思っております。今後のマンモグラフィ業務、品質管理、そして知識の向上に大きく役に立つ内容だと思っております。

JSRT 企画② MRI 班 10月3日(土) 14:00～15:00 第3会場

初学者も知っておきたい MR 撮像技術

座長 新潟大学医歯学総合病院 齋藤 宏明

弘前大学医学部附属病院 大湯 和彦

演者

岩手医科大学附属病院 菅原 毅

仙台厚生病院放射線部 佐藤 丈洋

JSRT 東北支部 MRI 学術企画班による TCRT 期間中のセミナーでは、初学者に向けた撮像技術の解説を多角的にみてきました。今年度は「心臓」を取り上げます。ハードルが高いと思われるがちな心臓 MRI ですが、今日ではハードウェアの進歩、AI 技術の撮像支援によってそのハードルは確実に下がってきています。その一方で、特有の撮像断面設定や心電同期を含めた撮像技術が存在し、プロトコルとその意義を理解することが重要です。これらを臨床画像とともに提示していただきます。岩手から発信される「心臓 MRI 撮像技術」にご期待ください。

JSRT 企画③ 核医学班 10 月 3 日（土）15:00～16:00 第 4 会場

明日から活かせる！脳と心臓の核医学負荷検査 ～経験者が伝える、「押さえどころ」～

座長 新潟大学医学部保健学科 野島 佑太

秋田県立循環器・脳脊髄センター 佐藤 郁

1. 心臓核医学検査における負荷試験の実際

大崎市民病院 佐々木 崇

2. 脳循環予備能評価における DTARG 法の実践 - 検査プロトコル・解析・安全管理のポイント

—

秋田県立循環器・脳脊髄センター 廣川 竜斗

核医学負荷検査は、他モダリティでは評価困難な循環予備能を的確に捉え、診断や治療適応の評価を行うために不可欠だが、安全管理や画像解析には高度な知識と経験を要する。本企画では臨床経験豊富な技師を招聘し、実践的な「押さえるべきポイント」を解説する。心臓領域（大崎市民病院・佐々木崇）では、虚血性心疾患における運動・薬剤負荷の使い分けや、検査中の監視、副作用対応を解説する。脳領域（秋田県立循環器・脳脊髄センター・廣川竜斗）では、主幹動脈閉塞・狭窄症例へのアセタゾラミド負荷脳血流 SPECT を取り上げ、臨床的意義、管理体制、症例解釈を詳説する。若手や他モダリティ担当技師にも有意義な機会としたい。

JSRT 企画④ DR 班 10 月 4 日（日）11:00～12:00 第 3 会場

タスクベースをやってみた！

座長 東北大学病院 川畑 朋桂

1. タスクベースをやってみた！ ～DR 領域・臨床画像の解像特性～

秋田大学医学部附属病院 高橋 俊吾

2. DR 画像のタスクベース解像度評価 ―検出器評価との違い―

東北大学病院 小野寺 崇

近年、一般撮影領域の画像には診断目的に対応した様々な画像処理が施されている。診断に適した画像が提供される一方で、非線形な画像処理の影響により従来の評価法では臨床画像の画質を評価することは容易ではない。

そこで本セッションでは、DR 領域におけるタスクベースでの評価をテーマとする。初めに、タスクベース評価の必要性と基礎についてご講演いただき、続いて、タスクベースでの解像特性評価の実際を、胸部ファントム例にて解説していただく。解説の中では様々な画像処理が解析に及ぼす影響についても検討していただく。本企画を通じて多くの会員が DR 領域におけるタスクベースでの評価に取り組むきっかけとなれば幸いである。

JSRT 企画⑤ 血管 IVR 班 シンポジウム 10 月 4 日（日）13:00～14:00 第 3 会場

次世代に伝える血管撮影 ～基本の継承と実践力の育成～

座長 秋田県立循環器・脳脊髄センター 佐々木 文昭

岩手医科大学附属病院 岩城 龍平

1. 一緒に学ぶ IVR の基礎・教育

秋田県立循環器・脳脊髄センター 松本 和規

2. 未来へつなぐ IVR ―技術革新と知の継承

仙台厚生病院 笠原 梓司

本シンポジウムでは、血管撮影の基本技術を次世代へ確実に継承するとともに、最新の技術動向や応用的手法を共有し、全世代で知識・技術をアップデートすることを目的とします。日常臨床で

求められる判断力や実践力をどのように育てるかを中心に、若手が直面する課題、中堅・ベテランが蓄積してきた経験、そして新技術がもたらす変化を多角的に議論します。

また、教育を通じて「持続可能な医療」をどのように具体化し、未来の血管撮影を担う人材育成につなげるかも重要なテーマとしております。技術の本質を見つめ直し、世代を超えて学び合うことで、明日からの臨床に生かせる視点と実践的な知恵を持ち帰っていただける場を目指します。

JSRT 企画⑥ CT 研究班 10月4日（日）13:00～14:00 第1会場

Motion correction 技術の現在地

座長 山形大学医学部附属病院 保吉 和貴

東北大学病院 高野 博和

1. 未定

昭和医科大学病院 後藤 光範

2. 未定

仙台厚生病院 五十嵐 江里子

本企画は「Motion correction 技術の現在地」と題し、近年注目されている本技術について原理的な理解を深めることを目的とします。モーションアーチファクトは、体動や呼吸、心拍などにより生じ、画質や診断精度に大きく影響する重要な課題です。

一方で近年は、各社装置においてさまざまな補正技術が導入され、臨床応用が進んでいます。本企画では、単なる使用経験や画質改善効果の紹介にとどまらず、「なぜ補正できるのか」「どのような情報を利用しているのか」といった技術的背景を整理しながら、Motion correction の本質に迫ります。Motion correction 技術を題材に、「観測されたデータ」から「真の画像」を推定するという、CT 画像生成の根幹にある考え方を理解する機会とします。

JSRT 企画⑦ 医療情報班 10月4日（日）10:00～11:00 第4会場

未定

JART 企画① 10月3日（土）10:00～11:00 第3会場

より安全・安心な小児検査を目指して

座長 東北大学病院 高野 博和

岩手県立中部病院 高橋 大輔

1. 小児医療におけるプレパレーションの重要性や実践方法について

宮城県立こども病院 大塚 有希

2. 小児検査における工夫や取り組みについて

宮城県立こども病院 富永 亜彩

JART 企画② 10月3日（土）16:00～17:00 第3会場

診療放射線技師の新たな挑戦～領域を超え、未来価値の創造へ～

座長 星総合病院 続橋 順市

いわき医療センター 名城 敦

1. 診療放射線技師による地域医療連携業務への挑戦

公立岩瀬病院 大原 亮平

2. 次世代の診療放射線技師に求められる「多角的な視点」

～テクノロジーとマネジメントを武器に医療の未来をデザインする～

みやぎ県南中核病院 坂野 隆明

JART 企画③ 10月4日（日）9:00～10:00 第4会場

説明(Before)×相談(After)で築く放射線医療－AI時代における“安全と信頼”の見える化

座長 山形県立中央病院 荒木 隆博

函館五稜郭病院 小林 聖子

1. Before－説明の質が安全を変える

～AI時代に「人」が紡ぐPX（患者体験）：医療安全の基盤となる信頼構築～

函館五稜郭病院 小林 聖子

2. After－説明のその先へ

～安心と納得を支える放射線被ばく相談～

東京メディカルクリニック 荒木 智一

3. AI×Human－技術革新と信頼構築

市立角館総合病院 千葉 大志

JART 企画④ 10月4日（日）14:00～15:00 第4会場

Japan DRLs2025 の線量管理への取り組み

座長 秋田県立循環器・脳脊髄センター 加藤 守

青森県立中央病院 伊丸岡 俊治

1. IVR の線量管理

太田西ノ内病院 瀧田 幸子

2. 据置型 X 線透視装置の線量管理

新潟大学医歯学総合病院 新田見 耕太

3. 移動型 X 線透視装置の線量管理

岩手医科大学附属病院 廣田 靖之